

Japan-YWP 第10回イブニングセミナー 開催報告

「トータツの雨水利用システム -これまでの取り組みとこれからの考え方について-

■講師：株式会社トータツ 安藤様、伊藤様

■日時：2019年6月19日（水）18：30～20：30

■内容：

今年で創立99周年となる株式会社トータツの安藤様と伊藤様より、今までの実績を踏まえた雨水利用（あまみずりよう）に関する事例や利用方法等についてご講演いただきました。

雨水は、汚いというイメージがあるかもしれませんが、実際には降り始めの『初期雨水』に粉塵や汚染物質、落ち葉、虫の死骸などを含むため、初期雨水が流れた後は利用価値のある水を得られます。溜まった雨水の利用方法としては、洗車や散水、植栽灌水、トイレの長清水、ビオトープ、農業用水、防火用水、災害時の非常用水、地下浸透などと、多様な目的に対して利用可能です。また、インドでは雨水貯留槽に併設して浄水設備を設置し、飲用水として使えるように整備している事例もあります。

貯留槽は、用途に応じて様々な大きさのものが存在し、個人宅用から企業・地域用の大容量貯留槽まで、建設面積に応じて設置することができます。貯留槽と比較して浸透槽を設置する件数の方が多いため、地下水が確保できるだけでなく、下水道への負荷も軽減されます。

今回特に興味深かったことの一つとして、海外での雨水利用があります。海外では、雨季・乾季がある地域において乾季に水不足になること、農業用水として大量の淡水を要すること、水源へのアクセスが難しいことなど、様々な問題が雨水利用により改善されるのではないかと考えられます。

また、現在はダムや調整池など、晴天時及び降雨時に『点』で水を貯留していることが一般的ですが、雨水貯留槽の普及により地域的に『面』で貯留することが可能になれば、内水氾濫等の水害予防に加えて雨水利用の可能性も大きく広がると感じられました。

当日は予想以上に盛り上がり、講演1時間・質疑応答1時間と活発な意見交換が繰り広げられ、有意義な時間となりました。



セミナーの様子